傾奇者（かぶきもの）
徒ら者（いたずらもの）

会津の前田慶次

慶次清水・慶次の屋敷跡

山形県米沢市堂森の供養塔

直江兼続を慕い、57歳頃に会津へ来たとされる前田慶次。
会津時代は『直江支配分限帳』に千石とある。
子孫は、喜多方市塩川町に住んでいた。今は会津若松市にに子孫が住む。
『無苦庵記』には、「此の無苦庵（慶次）は、孝を謹むべき親もなければ憐むべき子も無し。」と書かれていますが、二男利忠が会津に残り、蒔田善右衛門の娘婿となる。以後、前田を名乗り、直系は16代となる。

米沢市万世町堂森の善光寺の北側に、「慶次清水」があり、慶長十七（一六一二）年六月四日、七十歳で生涯を閉じたのが「前田慶次」とされている。

尾張で生まれ、滝川一益の従兄弟ともされ、母が前田利家の兄、利久（としひさ）の後妻となり、前田姓を名乗る。尾張荒子城主の利久で、慶次は姪と結婚したとされる。『米沢人国記』によると、織田信長が義父利久の相続を許さず、義父の弟利家に譲ったことから利家と仲たがいし、京へ出て利益（とします）、利太（としおき）、利大（としたか）と称したという。

前田利家が、能登と加賀り領主となると、利久は七千石、慶次は五千石を貰っている。しかし、義父が亡くなると、利家から離れ、再び京都へ行き、自由奔放な生活を送っていると、直江兼続に出会い、家臣にしてもらう。

慶長三年（一五九八）には、前田慶次は、領主の上杉景勝とともに会津に入り、喜多方市塩川の地に千石を貰う。

慶長五年、秀吉が亡くなったのち、徳川家康と対立する。上杉軍は、山形城主の最上義光を打つべく、攻めたのが長谷堂城であった。上杉軍は、半月で三回総攻撃をするが落城しなかった。

そして、関ケ原の戦いで、豊臣軍が敗北し、上杉軍も撤退を余儀なくされた。すると、長谷堂城では、最上、伊達勢の反撃があり、撤退することとなり、殿（しんがり）だったのが慶次であった。三間（五．四メートル）の大槍を持ち、見事な戦いをしたという。

≪前田家系譜≫

会津の前田慶次屋敷跡

初代利夫前田慶次郎 → 二代利忠前田近江 ―― 三代利政　前田

入道その他不詳　慶安二年四月十六日没　明歴元年七月十五日

法名　泰雲院花応全栄居士

図・写真・文　©石田明夫2018　問合せ　TEL・Fax 0242-24-3423　090-1378-8087
メール・ホームページ「会津歴史観光ガイド協会」で検索。